

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会

〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839

購読料 円共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷

第537号

8月夏季特別号 TOPICS

- 2面…東北厚生局指導情報開示
- 3面…長期収載品に関する疑義解釈
- 4面…今年度の指導計画(歯科)
- 5面…つるさんのお店探訪
- 6面…気になるワインの話



残暑お見舞い申し上げます

役職員一同

豪雨災害により、被害に遭われた皆様へ 謹んでお見舞い申し上げます

- ◆医療機関やご自宅に被害を受けた先生はご連絡ください。
(お知り合いの先生の被害状況などをご存知の先生も
ご連絡ください)
- ◆災害見舞金規定に基づき審査後、お見舞金を支給いたします。

山形県保険医協会

夏季特別号写真コメント



げっ てん ふ かん 月 天 俯 瞰

寒河江市
大久保歯科医院 大久保 明 先生

とある学会の帰り、フライト時間を夜間飛行に調整し窓から星空の撮影を試みました。満月期であり月光と飛行機の翼の光が写っています。窓に反射するのを防ぐため窓に合わせたレフ版をレンズに取り付け、添乗員さんに借りた毛布をかぶって撮影しました。

最近単身の高齢者が目立つて増えている気がします。以前は大家族が多かった山形も最近は同居家族が少なくなっています。若夫婦はプライバシー優先で親と別居。仕事関係で県外移住もあるでしょう。親も気を遣ってその意をくむ。老夫婦は盆暮れに遠方の息子・娘家族に顔を合わせる程度で、次第に老々介護となっていくます。どちらかが病気で怪我で入院・施設入所となるといよいよ一人暮らし。行政は「住み慣れた街、住居で最後まで暮らそう」とPRします。確かにその通りですが、行き届いたサポート体制、また家族の絆があつてこそでしょう。少子高齢化の世の中、子育て多忙の若夫婦には高齢の親を気遣う余裕はなかなか無いでしょうが、月数回の電話や時に対面での安否確認は必要です。愛情そそぐ子育てを、その昔自分たちもしっかり受けてきたのですから。(K)



例年より早めの暑さが続いた6月に、続けて3件の警察からの問い合わせがありました。いずれも単身生活の高齢者が自宅で亡くなっていたという事で、病歴などの問い合わせです。家族や近所の知人が訪ねて発見されたとのこと、司法解剖やオートプシーイメージング(死因解明のためのCT検査)が行われ病死が確定されましたが、気温や湿度等の環境要因による体調不良が影響したようです。